

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)JR三ノ宮新駅ビル(三ノ宮駅北)	階数	地上30階、地下2階
建設地	神戸市中央区雲井通八丁目301番2、	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	20,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、飲食店、ホテル、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年10月 予定	評価の実施日	2024年2月9日
敷地面積	8,583 m ²	作成者	株式会社竹中工務店 阪本 泰智
建築面積	8,064 m ²	確認日	2024年2月9日
延床面積	91,781 m ²	確認者	株式会社竹中工務店 布上 亮介



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 5.0 Q-2/2.4 信頼性 4.3	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 4.0
配慮の概要 0	配慮の概要 0 建築基準法に定められた50%増しの耐震性を有する	配慮の概要 0 景観計画区域内にあり三宮交差点から見る全景や周辺の街並みに配慮している
その他の配慮事項 0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
 (仮称)JR三ノ宮新駅ビル(三ノ宮駅ビル新築他工事)

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築
 ■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.5
Q1 室内環境							0.40		-	3.3
1 音環境						2.9	0.15	3.0	1.00	2.9
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						3.0	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能						3.0	0.87	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.13	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						2.5	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境						3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温						3.0	0.46	3.0	0.57	
2 外皮性能						3.0	0.20	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.35	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						3.6	0.25	3.3	1.00	3.6
3.1 昼光利用						4.2	0.51	4.2	0.30	
1 昼光率		昼光率 オフィス3.8% ホテルレストラン16.14% 客室2.49%				5.0	0.21	5.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備		昼光利用設備 アーケードトップライト				4.0	0.79	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						3.0	0.11	3.0	0.30	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.05	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.33	3.0	0.25	
4 空気質環境						3.8	0.25	4.0	1.00	3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		内装材は全てF☆☆☆☆を使用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.4	0.30	4.0	0.38	
1 換気量		換気量の確保(30 m ³ /h/人)				4.0	0.47	4.0	0.33	
2 自然換気性能		ホテル客室 1/10以上				3.0	0.05	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.47	3.0	0.33	
4.3 運用管理						3.7	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 監視が中央で常時行えるシステムとなっている				5.0	0.40	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.60	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.6
1 機能性						3.2	0.40	2.6	1.00	3.1
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性						3.0	0.05	1.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応		Cat6				3.0	0.05	5.0	0.50	
3 バリアフリー計画						3.0	0.90	-	-	
1.2 心理性・快適性						2.2	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		事務所天井高2.8m				3.4	0.29	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		事務所レベル5 物販レベル3				3.5	0.21	-	-	
3 内装計画						1.0	0.50	1.0	0.50	
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		床面は防汚性の高い建材、塗装、コーティングを採用				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃用流しを設置している				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						4.3	0.30	-	-	4.3
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた50%増しの耐震性を有する				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		オイルダンパー等の制振部材を配置				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						4.3	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		全体機能の停止を引き起こさないよう吊配管などを行っている				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		中水などの利用が可能なように計画している				4.6	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電設備を備えている				4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		ネットワーク機器用に無停電装置が設備されている				4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	3.1	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.24	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	3.75m以上	5.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	0.1 ≤【壁長さ比率】 < 0.3	4.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.24	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	0.52	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	設備機器の更新に対応した仮設スペースを確保	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観計画区域にあり周辺の街並みに配慮している	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		広場や歩道状空地を確保し地域の活動上のアメニティ向上に貢献	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		人が出入りできる屋上を広範囲で緑化している	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.6	0.20	-	-	1.6
2 自然エネルギー利用		屋光利用設備 アーケードトップライト	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.70	4.7	0.50	-	-	4.7
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	建物全体のエネルギー消費量の目標値が計画されている	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	3.5
1.1 節水		節水型便器 節水コマを採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑用水利用をしている	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減		Fc60以上かつF490以上	5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ECMセメント	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		塩ビシート 緑化資材 岩綿吸音板	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS OAフロア	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20	-	-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない建材を使用している	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用している	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率72%	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な駐輪台数を確保している	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリスト・広告物の取り扱いの過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	